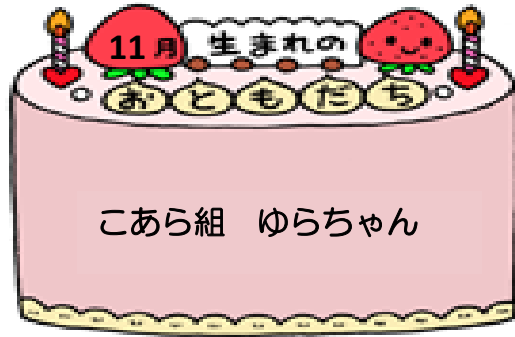




園だより

『今月の保育のめあて』

☆彡 秋の空気・自然の音や声を聞いてみよう



- 7日・21日(水) 身体測定
- 第3週目(月～金) 身体測定
- 16日(金) お話会 やまんば
- 22日(木) お誕生会
- 27日(火) 避難訓練

《お知らせ》11月1日から
こあら組に松野先生が入ります

今月は「子どもに伝えたい伝統行事と文化」『七五三』について書いてみますね・・・

七五三とは三つの儀式《髪置き》《袴着》《帯解き》を一つにまとめた七五三節目の歳に子どもの健やかな成長を祝う行事です。節目となる三歳・五歳・七歳で行うことから七五三といい、十一月十五日晴れ着を着て神社に参拝する習わしがあります。元々は公家や武家で行われていた髪置き、袴着、帯解きという別々の儀式で、年齢、性別、日取りなどは時代や階層によってさまざまでした。

十一月十五日になったのは、江戸時代に徳川五代将軍・綱吉が息子のお祝いをした日に、ちなんだからなどと諸説があります。また、明治時代に現在のような形式になり、戦後から全国的に広がったと思われます。

七五三が 広く浸透していった背景には、『七つ前は神のうち』という考え方があります。

昔は今に比べると乳幼児の生存率が低かったこともあり、「七つ前は神のうち」と言われ、七歳までは神様からの預かりものであるから、何をしても「バチ」はあたらないが、魂が定まっていなくて何時死ぬかも、わからないとされていました。また、昔は子どもを無事に育てることは、とても 大変だったため、成長の節目に晴れ着をきせて神様に感謝し、これからも健やかに育つよう願うようになったそうです。そうして無事に七歳を迎えると、神のうちから人間側に移り、神様を祭る側の氏子になって、社会の一員となりました。七五三が今でも伝承されているのは、昔も今も子を思う親の気持ちにかわりはないからだと思えます。

《髪置き=三歳の男女》それまで剃っていた髪の毛を伸ばし始める儀式。男女共に行われていましたが、現在は女の子のみという地域も多いです。頭に白い真綿をのせ、白髪になるまで長生きするように願う風習があります。

《袴着=五歳の男の子》初めて袴を着ける儀式。平安時代には男女共に行われていましたが、江戸時代に武家の男の子のお祝いに変化しました。四方を制することができるよう、碁盤にのって着付け、四方を拝んだりする風習があります。

《帯解き=七歳の女の子》兵児帯(へこおび)を締める幼児期向けの着物から本式の帯を締める着物になる儀式。七歳で締める帯には、魂をしっかりと留めるという意味もあり、帯を絞めて一人前とみなされました。

園長 丸池



こあら

こあら組の子ども達は歌や絵本が大好きで毎日絵本を読んでいる内にいつの間にか、みんな指定のマットに集まってくるようになりました。また、毎日大好きなペプサートが始まると競い合って集まり、楽しみに待つ姿がとても可愛いく、私たちはこあら組のみんなから元気を貰っています。また、ペプサートを観ながら季節の歌を楽しみ、音楽が流れて来ると子ども達は手にマラカスを持ち身体を可愛く揺らしながらリズムをとるまでに成長してきました。



うさぎ

天気の良い日は戸外に出て草花を摘んだり、散歩にでたりと秋ならではの・・・を肌で感じています。時々保育園の裏にある柿の木の柿をみて「なぜ？柿って木にぶら下がっているのかな」と不思議そうに覗いている姿や散歩で栗の木の下に落ちている栗といがを覗いて、いがのチクチクにビックリする子ども達、秋の自然を五感で感じとった記憶はずっと残り、大きくなった時にはみんなで枯れ葉を踏んだ音やお友達と見つけた草花を思い出してくれたら嬉しいな～・・・



ぱんだ

ここ最近ではおやつのお皿に、小袋に入ったままのおせんべいをのせてだすと、自分たちで小袋を開けて中身を出す事が出来るようになってきました。また、ゼリーやヨーグルトのふたの間隙をちょっとだけ開けてあげると自分たちで開けることが多くなり、子どもたちは少しずつ自分で出来ることは自分でしようとする意欲が見られ、時にはこあら組さんのお世話をしている姿も目にします。元気いっぱいぱんだ組さんですよ・・・
